

高田商店街お茶飲み発信プロジェクト

～商店街でのお茶飲みを通じた交流・地域活性化の提案～

A2201522 広田 亜依

研究の背景

会津美里町高田地区にある高田商店街は、この地区のメインストリートであった。しかし、現在商店街を利用する人が少なくなっている。それは地域の過疎化や、商店街全体の高齢化により、扱う商品が時代のニーズに合わず、客足が大規模店舗へ流れている等の現実がある。一方、この商店街には、「お茶飲み」という習慣がある。お茶飲みをすることが必ずしも店の利益に繋がるとは限らないが、商店街では「目先の利益より、ここで楽しく過ごしてくれたらそれでいい」という考えを多くの店主が持っている。本研究では、その「お茶飲み」で使用する机に着目した。お茶を飲む際に必要になるだけでなく、人々のコミュニケーションの中心になるアイテムであるとも言えるだろう。そこで「高田スタイル」とも言えるお茶飲み機の確立を目指し、これを外部に伝えようと考えた。また、その他にも店舗一つひとつの魅力や個性を、御用聞きをしてピックアップし、それを活用して外部の人だけでなく、町民にも商店街の魅力を知ってもらえるようなきっかけづくりを行いたいと考えた。

研究の目的

商店街の店舗には、そこにしかない魅力がたくさんある。その店の魅力を町民・外部の人々へ伝えることができれば、商店街に人が足を運ぶようになり、コミュニティも広がるのではないかと考えた。

商店街の17の店舗にヒアリング調査をしたところ、13の店舗がお茶飲みを行っていた。残りの店舗でも、知合いが来たときにはお茶を出す程度のことはやっていた。そのお茶飲みの際に使われる机をスタイルとして確立することで、商店街が統一感を持ち、商店街の人々同士のコミュニティもより一層深まるのではないかと考え、そこから横の繋がりで、店舗のお客さんが足を運ぶことにより、外部との繋がりも生まれるのではないかと考えた。本研究では、町民、外部の人々と商店街のコミュニティづくりのきっかけになることを目的とする。

研究のプロセス



成果物(完成作品)

- 高田スタイルお茶飲み机

お茶飲みをする際、中心となるアイテムである。その店舗によって大きさも異なる。今回は3つの店舗に協力をいただき、制作を行った。この3つの店舗を筆頭に、これからの高田商店街に下記の「高田スタイル」のお茶のみ機を確立できたら、商店街の人々のコミュニケーションの上昇も見込めると考える



私の考えた「高田スタイル」

1. 冬はこたつとして使用するので、天板が取り外せるようにする
2. 暖房器具を入れるので中の脚が焦げないように金属の板を入れる
3. 組み立て式にする

- 高田スタイルお茶飲みツール

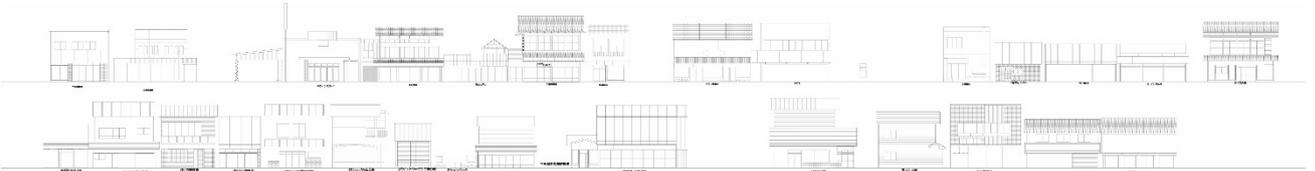
これは、机を制作する際にツールもセットで考えた。引渡しの際には、机とツール2つをセットで使っていただく。これをお茶飲み机と一緒に使うことにより、更に一体感が生まれるのである。



椅子は、組み立て式にする必要性が無いので、ビス止めを施し、しっかりと安定感を持たせた。お茶飲み机のデザインと統一されていることがこのツールの特徴である。

- エレベーションマップ

高田商店街の町並みを表したエレベーションマップを制作した。これは、ヒアリング調査を行った店舗だけでなく、その間にある住居や金融機関も表した。そうすることにより、高田商店街通り全体の雰囲気がかかるようにした。



こちらのものは、着彩前の図面である。縮尺は1:100で表現した。着彩は水彩絵の具で施した。

- 油絵展示壁

ある店舗に店主の妻が油絵を描いているところがあった。現在は店舗の壁にそのまま掲示をしているのだが、その店舗の1つの魅力であると考え、展示のできる壁を制作した。

考察

今回17の店舗にヒアリング調査を行った。17ある店舗の中でも、行商を行っていたり、パソコン教室を行っていたり、めずらしい商品があったり、趣味で油絵を展示していたり、教科書の販売・配達を行っていたりなど、本業とまた別なものやことを行っている店舗もあった。それらの根底にあるのはやはり、地域住民とのお茶飲みである。お茶飲みをしながら集まった人々と話をする中で、自分の店舗でしかできないことの確立につながるのではないだろうか。したがって、個々の店舗がお茶飲みの空間をもっと店の前面に出すことができれば、地域住民との関わりも深くなるのではと考えた。しかし、店主の高齢化などにより、今のお茶飲み場から突然前面へ動き出すのは難しいことかもしれない。まずは週1回お茶飲みデーなどを設けて、机と椅子、そしてポットやお茶菓子などを一緒に店の前のほうへ持っていくことから始め、それが少しずつ無理なく習慣化していけば、商店街を通りがかった町民が興味をもつきっかけになるのではないかと考えた。